

Lesson5 解答

【Scene 1】(疑問詞＋不定詞)

メアリーは外国への郵送の決まりを知りたがっている。

Mary: 一番近い郵便局がどこにあるか考えてくれる？

Rob : 道沿いのどのポストにでも手紙を投函していいんだよ。

Mary: 外国に送るお土産はどうやって梱包したらいいのかしら。

Rob : ええと、小包なら、スローンスクエアにある郵便局に行くといいよ。

Mary: わかったわ。今日そこへ行ってどうしたらいいか教えてくれるよう頼んでみるわ。

Rob : 知っておかなきゃいけないことを全て教えてくれるよ—大きさとか重さとか。

【Speak 1】

- ① He doesn't know how to fix the screen.
- ② She doesn't know how to figure out the bus map.
- ③ He doesn't know how to make an apple pie.
- ④ She doesn't know how to find the flight information.
- ⑤ He doesn't know how to shop online.
- ⑥ She doesn't know how to use the new fax machine.

【Speak 2】

- ① (how) They're not sure how to set up a tent.
- ② (whether or not) They're not sure whether or not to go waterskiing.
- ③ (when) They're not sure when to swim in the ocean.
- ④ (where) They're not sure where to play basketball.
- ⑤ (whether or not) They're not sure whether or no to ride on the roller coaster.
- ⑥ (whether or not) They're not sure whether or not to go hiking in the hills.

【Speak 3】

- ① Where should I go? (She doesn't know ...)
—She doesn't know where to go.
- ② How many souvenirs should I buy? (He can't decide ...)
—He can't decide how many souvenirs to buy.
- ③ I can't use the new software. (She hasn't learned ...)
—She hasn't learned how to use the new software.
- ④ What shall I do? Whom should I ask? (He's wondering ...)
—He's wondering what to do and who[m] to ask.
- ⑤ Shall I give my seat to that lady or not? (She's wondering ...)
—She's wondering whether to give her seat to that lady or not.

- ⑥ How much petrol should I get? Dad didn't tell me. (His dad didn't tell him ...)
—His dad didn't tell him how much petrol to get.
- ⑦ When should I phone him? (She's not sure ...)
—She's not sure when to phone him.
- ⑧ Which road should I take after crossing the bridge? I'll ask someone. (He's going to ask someone)
—He's going to ask someone which road to take after crossing the bridge.

【Scene 2】 (other の様々な使い方)

メアリーはロブに、小包を三つ送るつもりだということを話した。

Rob : ところで、小包をどこに送るの？

Mary: 日本にいとこがいて、お互いいろいろ送り合っているの。だから一つは彼女に。小さなピーターラビットのウサギよ。

Rob : 他のは？アメリカにおくるの？

Mary: ロサンゼルスのおばにもウサギを一つでしょ、そしてあと一つの小包はワシントンの祖母に送るつもりよ。

Rob : またウサギじゃないだろうね！

Mary: おしいわね！祖母にはビアトリクス・ポターの『ピーターラビット』やその他の話が入った本を一冊送るの。

【Speak 5】

- (1) another (2) the other (3) the others (4) the other (5) the others (6) the other

【Read】 (会話のボール)

メアリーもスーザンもバレーボールに夢中である。スーザンはメアリーに学校新聞に出した記事で書いた、会話術をバレーボールにたとえた作文を見せる。

会話は技です。気軽に楽しく互いに会話できる人もいれば、会話があまり得意でない人もいます。自然にその技を身につけている人もいますが、多くの人はそれを修得するために努力しなければなりません。

楽しい会話には二人が必要です。もし一方が話して、もう一方はただそれを聞くだけならそれは本当の会話ではありません。両方がお互いに話したいと思い、会話を続けなければならないのです。

私はバレーボールが大変好きですが、会話はうまくいくバレーボールの試合にたとえることができます。バレーの試合では、二つのチームがネットをはさんでお互いにボールを打ち合います。大切なのはボールを落とさないということです。ボールを相手側に打ち返さなければなりません。もしボールを落とせば、失点になります。

会話においても、大切なのはボールを落とさないということです。もしグループの中のだれかがあなたに「出身はどこ？」と尋ねて、あなたが「ウインブルドンよ。」としか返さなかったら、あなたはボールを落としてしまったこととなります。他の人がボールを拾って、再びあなたにトスしなければなりません。また、「自分に興味がなさそうな男の子とデートしてみたことある？」と、聞いてくるかもしれません。「ええ、2、3回」とだけ答えて何も付け加えなかったら、あなたはまたボールを落としてしまったこととなります。もしそのようにボールを落とし続けて、いつ、どのように自分自身に関することを付け加えるとよいかを身につけなければ、他の人たちはあなたと話すのを諦めてしまいます。